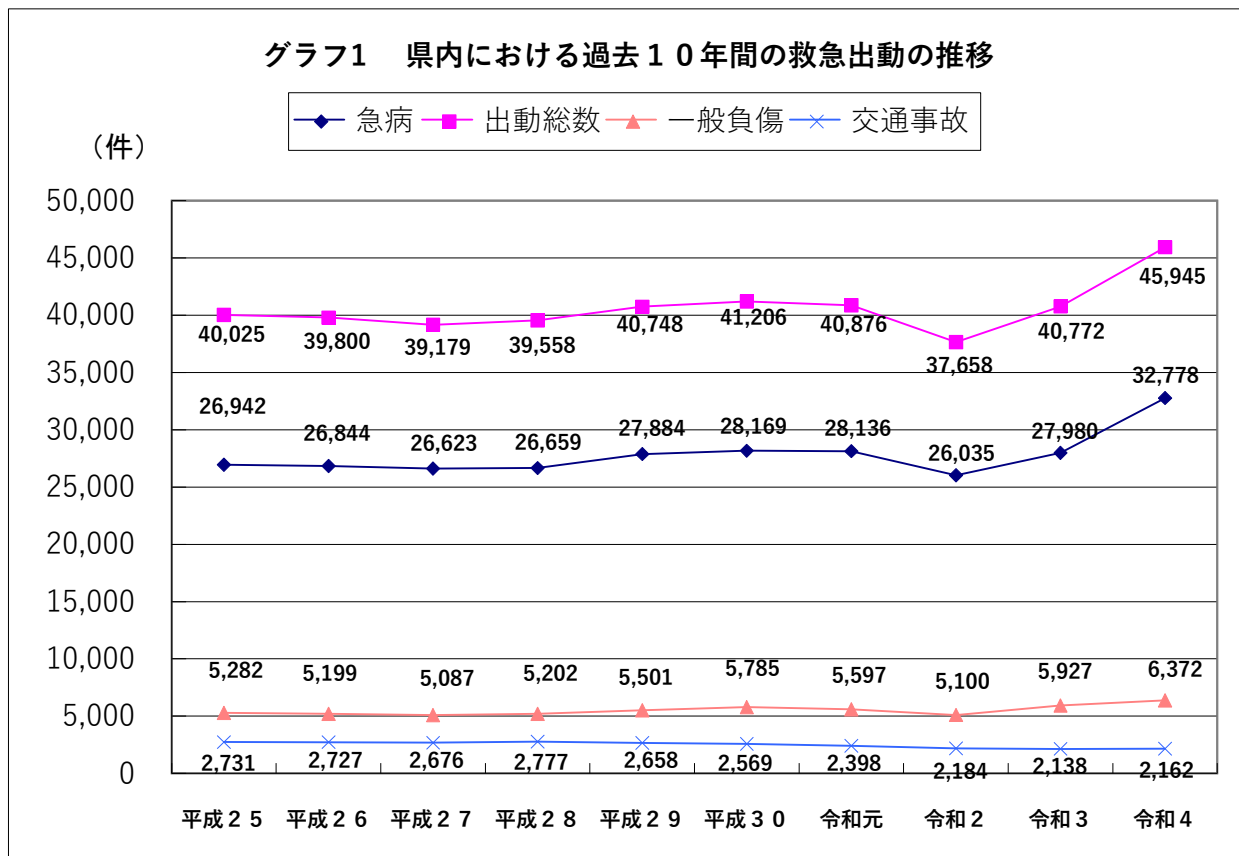


救急・救助

1 救急業務の概況

救急業務については、昭和38年の消防法の改正により、救急隊による傷病者の搬送業務が制度化されて以来、救急出動は年々増加傾向にあり、令和2年は一時的に減少したものの令和3年度から再び4万件を超え、増加傾向が続いている。



なお、令和5年4月1日現在における救急体制は、13本部で救急車87台(うち高規格86台)、救急隊員1,372名(兼務発令者を含む。うち救急救命士有資格者460名)となっている。

別表

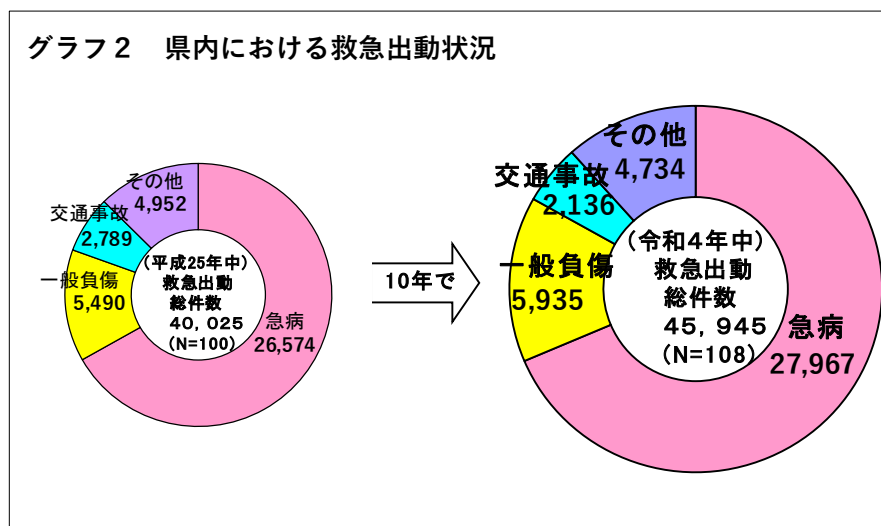
消防本部	救急隊数	救急自動車数(台)			救急隊員数(人)		
		計	高規格	その他	計	救急救命士	その他
鹿角広域行政組合消防本部	4	4	4	0	66	23	43
大館市消防本部	4	5	5	0	92	34	58
北秋田市消防本部	5	5	5	0	88	34	54
能代山本広域市町村圏組合消防本部	8	9	9	0	149	49	100
湖東地区行政一部事務組合消防本部	3	3	3	0	54	19	35
五城目町消防本部	2	2	2	0	27	13	14
男鹿地区消防一部事務組合消防本部	7	8	8	0	119	34	79
秋田市消防本部	9	12	12	0	178	57	99
由利本荘市消防本部	8	9	9	0	128	43	85
にかほ市消防本部	2	3	3	0	48	16	32
大曲仙北広域市町村圏組合消防本部	11	12	11	1	177	59	118
横手市消防本部	7	8	8	0	139	51	88
湯沢雄勝広域市町村圏組合消防本部	6	7	7	0	107	28	79
合計	76	87	86	1	1372	460	884

(1) 救急出動

令和4年中の救急出動は45,945件となっている。

事故種別でみると急病が最も多く32,778件で全体の71.3%を占め、次いで一般負傷6,372件

(13.9%)、交通事故2,162件(4.7%)の順となっており、これを10年前と比較すると全体で5,920件(約14.8%)の増である。(グラフ2)(第1表)(第4表)(第7表)



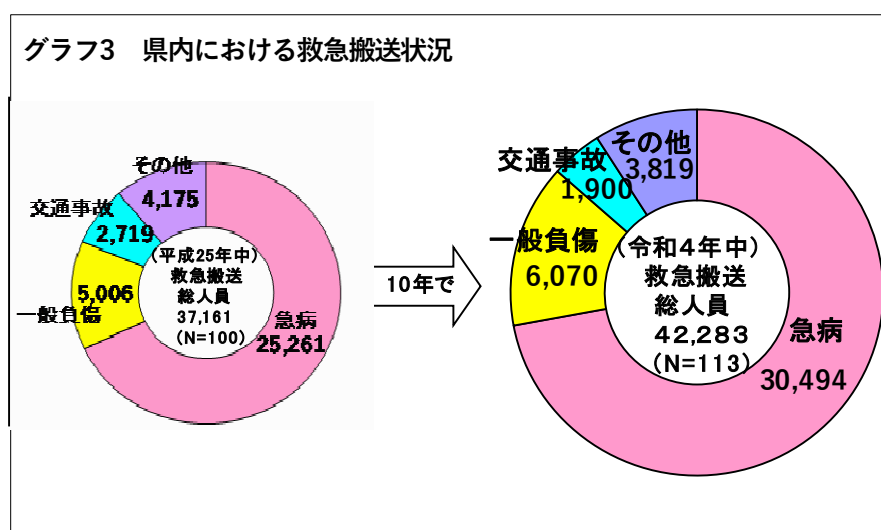
これを月別にみると、12月が4,684件で最も多く、次いで8月が4,357件、7月が3,947件となっている(第4表)。

(2) 救急搬送

令和4年中の傷病者等の搬送人員は42,283人となっている。

事故種別でみると救急出動同様に急病が30,494人で全体の72.1%を占め、次いで一般負傷

6,070人(14.4%)、交通事故1,900人(4.5%)となっており、これを10年前と比較すると全体で



年齢階層別では高齢者(65歳以上)が30,968人で最も多く全体の73.2%を占め、次いで成人(18歳以上65歳未満)9,501人(22.5%)、少年(7歳以上18歳未満)886人(2.1%)、新生児・乳幼児(満7歳未満)928人(2.2%)となっている。(第5表)

傷病程度別では軽症(入院加療を必要としないもの)が19,220人で最も多く全体の45.5%を占め、次いで中等症(3週間未満の入院加療を必要とするもの)が13,399人(31.7%)、重症(3週間以上の入院加療を必要とするもの)8,462人(20.0%)、死亡(初診時において死亡が確認されたもの)1,200人(2.8%)となっている。(第5表)

(3) 応急処置等

① 応急処置件数

令和4年中における救急隊員が行った応急処置件数は、176,276件であった。
内容別でみると血中酸素飽和濃度測定が39,913件で全体の22.6%を占め、次いで血圧測定39,299件(22.3%)、心電図33,450件(19.0%)の順となっている。(第3表)

② 応急手当の救命効果

令和4年中における救急隊が搬送した心肺停止傷病者のうち、家族等により応急手当が実施された者の1か月生存率は、県平均で3.3%であった。(第9表)

